

＊幸せのいっかん＊



十日戎に欠かせない「福笹」は、
神様から授与された笹に、吉兆と呼ばれる
さまざまな細工物をその年の福娘が結びつけたもの

※イラストはイメージです。

読む人の幸せを心に願って作る

喜びの タネまき 新聞

No.578

今宮戎神社の十日戎〈大阪府〉

古くから「天下の台所」の異名を誇る大阪で、商売繁昌の守り神と言え
ば「えべっさん」こと「えびす様」。1月9・10・11日にわたって開かれる「十
日戎」には100万人を超える参詣者が訪れ、大きな賑わいを見せます。

〈お客様と共に〉

全国のダスキン加盟店やミスタードーナツショップなどに、年間三百店ほど訪問しています。訪問したお店では、加盟店オーナーやモップ・洗剤をお届けするお客様係と会話し、いろいろなことを教えていただきます。働き始めて間もない方や、五十年近く勤めている方もおられ、皆さん明るく元気な方が多くていつも力をいただいています。

長年、仕事をされていると体調を崩す時もありますが、皆さんが話されるのは「お客様が待っているから」「お客様に支えていただいているから」など、お客様への感謝の言葉です。そして、長く仕事を続ける秘訣を伺うと、皆さん「お客様に商品をお届けした時に、会話を通じていろいろなことを学べるのが楽しい」と話されます。

お客様とは売り手と買い手だけの関係ではなく、コミュニケーションを通じて互いの心が豊かになっていくことをダスキン創業者は願っていました。私たちは、家族・友人・会社などいろいろな場面で多くの人と関わりながら生活をしています。少しでも相手の気持ちに寄り添い、笑顔で会話をする事で、お互いの心が豊かになると思います。

新しい年を迎え、今年も全国各地域で多くの人と出会えることを楽しみにしております。そして、互いに心が豊かになる会話を重ねていける一年にしたいと思います。

株式会社ダスキン社長

山村輝治



日本は
ひろいな
おいしいな

青森県五所川原市金木町

「NPO法人かなぎ元氣倶楽部」

宝を磨いて

元氣を守った町

「金木は、私の生れた町である。津軽平野のほぼ中央に位し、人口五、六千の、これといふ特徴もないが、どこやら都会ふうになちよつと氣取つた町である(原文)」。

昭和の文豪・太宰治の著書「津軽」の一節です。

青森県五所川原市にある金木町は、古くは林業を中心に栄えた町でした。今では太宰の故郷として知られ、彼の生家は記念館「斜陽館」として重厚な建築美で訪れる人を魅了しています。昨年10月には町が一体となつて「太宰ウィーク」というイベントを催し、多くの人で賑わいました。

しかし、一度は町が廢れる寸前にあつたのだと、「かなぎ元氣倶楽部」の今さんは語ります。

「五所川原市・市浦村と合併した時、どこことなく町全体から活氣が失われていきました。このまま過疎化・高齢化が進むと地域の祭りなどの担い手が少なくなつてしまふ。そこで「金木の文化は金木の人で守つていこう」と立ち上げたのが、かなぎ元氣倶楽部なのです」。

揃つたメンバーはアーティストやバスガイド、学芸員など個性豊かな面々。そして何よりも、皆が愛する金木の町には、「宝」がありました。「この斜陽館をはじめ、森には青森ひばが繁り、貴重な森林鉄道軌道跡も見られます。これらの宝を活かしたいと考えたのです」。そしてメンバーそれぞれの特技を駆使しながら、地元民謡「津軽じょんから節」や「嘉瀬の奴踊り」を継承する教室を開くなど地道な活動が続けていきました。

ただ、最も大きな宝である「太宰治の故郷」を活かすことは容易ではありませんでした。世間の評価とは異なり、地元の人にとつて太宰は「津島のごんじやし」厄介者(津島は太宰治の本名)として、あまり良いイメージではなかつたのです。「ですから、まずは皆の意識を変えていく必要があると考えました。ちょうど2009



「太宰ウィーク」では、幼稚園児たちの鼓笛隊演奏が披露され、ほんわかとした雰囲気



太宰治記念館「斜陽館」。入母屋造で和洋折衷の贅を尽くした豪邸は、明治期の貴重な木造建築物として重要文化財建造物にも指定されている

青森県五所川原市金木町
幸せな食べ物×幸せな風景

炊飯器でつくる

タルトタタン風りんごケーキの作り方



1



2



3

りんご2個を洗つて厚さ5mm×1cm程度のくし切りにし、芯を取り除く。この時、皮はむかない。

フライパンにグラニュー糖60gとバター40gを入れ、中火にかけて溶かす。焦げ付かないように木べらなどで混ぜながら、赤褐色になるまで炒めてキャラメリゼを作る。

②に①を加え、中火で炒める。りんごを入れるとキャラメリゼは固まるが、しばらくすると溶ける。果肉がしんなりしてきたら、ブランデー大さじ2を入れて火を止める。



4



5

材料 (5.5合炊飯器使用)

りんご ……中2個(もしくは小3個)
グラニュー糖 ……60g
バター ……50g
(うち10gは溶かしバターとして使用)
ブランデー ……大さじ2
ホットケーキミックス ……100g
牛乳 ……50cc
卵 ……1個

ホットケーキミックス100gに卵1個を割り入れ、牛乳50ccと残りのバター10gを溶かして加え、よく混ぜる。

炊飯器の釜の底に③を敷き詰めて、上から④を流し入れる。炊飯器にセットし、白米の炊飯と同様のメニューで炊く。炊き上がった皿にひっくり返す。



別邸にある疎開中の太宰が執筆していた部屋。文机の前に座れば文才が目覚めるかも!

「幸せな食べ物」の
作り方を教えてくれた人



りんご大学
三上さんと武藤さん
青森りんごの歴史や品種、
レシピなど、さまざまな情報を
発信するWebサイト「りんご
大学」を運営しているお二人
<http://www.ringodaigaku.com>

えがおで暮らせば

見た目ではなく
「美しい」と感じる場合があります。
そして、美しさには
人を惹きつける力があります。
その不思議な力について
坂井さんと一緒に
考えてみました。

第六話

「美しい」ということ

心洗われる自然の美

新年あけましておめでとうございます。
冬に海とは少し寒々しいのですが、私が住んでいる葉山からは相模湾越しに富士山を望むことができますので、一富士の縁起にあやかっ

つをさせていただきました。少し霞んでいますが、今日も富士山は美しいです。
歳のせいでしょうか、最近づくこの地に暮らしていることを、ありがたく感じています。だつて、ちよつとお買ひ物に出るだけで、季節の色に染まつた山やキラキラと輝く海に出合えるんですから。その度に、心がすつと軽くなる気がします。

今回のテーマをお聞きして、真つ先にこの景色を思い浮かべました。「心洗われる」という言葉の通り、

り、自然の美しさは、見る人の心を清らかにしてくれるのではないのでしょうか。

心を映す鏡を持つ

「美しい人」も同じです。表面的な美醜の話ではなく、その人の振る舞いや心遣いに、ついこちらまで優しい気持ちになったことはありませんか？ そんな人に出会うと「美しい人だな」と思いますし、私もできることならそうありたいと憧れてしまいます。心の持ち様は案外すぐに伝わってしまうもの。いつも周りを思いやれる人こそが、美しい人なのだと思います。

実はその逆も然りで、子育てに追われていた頃、ついつい子どもに声を荒げてしまったことがありました。するとそれを見ていた主人が、その声を録音して私に聞かせたんです。それはそれはショック

ライラすることはあると思いますし、その度に鏡を覗いて反省ばかりしていたら、自分が嫌になっ

そんな時、心を柔らかくしてくれるのが「美しいもの」たちです。お気に入りの家具や食器、お花やお洋服、何でも良いんです。それがあると心が豊かになるものに囲まれていれば、イライラを忘れさせてくれます。

例えば、我が家のリビングにある水屋はもう20年以上も一緒に暮らしています。古材を集めて作つたもので、年を重ねてこそその温かな風合いと、どつしりとした存在感が気に入っているんです。秋に家を改築したのですが、新しい家にこの水屋を入れた瞬間、「ああ我が家だ、自分の居場所だ」と感じて安心しました。

器もお気に入りがたくさんあって、それらを活かすことがお料理の楽しみの一つになっています。面倒な作業の多いお料理でも、大好きな器に盛るのだと思えば楽しめるんです。

また、普段はあまり使いませんが、お出かけの時に身につけるアクセサリーもお気に入り。お洋服もそうですが、やはり美しいものを身につけると大らかな気持ちでいられますよね。



20年以上使っているという水屋は、坂井家のリビングの顔



物語を感じる繊細な細工がお気に入りのシルバーアクセサリー

美しい心で

ものの価値は、値段やブランドではありません。自分の年齢や立場などから、人にどう思われるかと考える必要もありません。あなたが心から好きと思うもの、それがただでウキウキするものを暮らしの中に採り入れてみてください。

いろいろと申しましたが、一番大切にしたいのは、健やかで美しい心です。自分が美しい心であれば、きっと相手も美しい心で返してくれます。よく言われることですが、相手を変えたいと思うなら、まずは自分が変わること。とても難しいことで、私もまだまだできていませんが、本当にその通りだと実感しています。

イライラしたら、鏡を覗いてください。澄んだ青空を見上げて、大好きなカップで紅茶を飲んで、ちよつとひと息。どうぞ今年一年、皆様と皆様の大切な人達が心健やかに過ごせますようお願いしております。

坂井より子さん

1946年生まれ。料理研究家。神奈川県葉山町在住。自宅で料理教室を主宰する傍ら、子育てママとのお話会や親子教室を開催。やさしい家庭料理と温かな人柄で幅広い年代から支持を集めている。昨年12月に新刊「(仮)暮らしをつむぐ」(技術評論社)を発行。

ほほえみのひろば



かるたさん、ありがとう

佐賀県武雄市 相川 啓子さん

我が家は8人の大家族。孫達にも恵まれ、騒がしい毎日を送っています。

先日、3歳と4歳の孫に「ことわざかるた」を買いました。「犬も歩けば棒に当たる」「門前小僧、習わぬ経を読む」と、私達には懐かしいかるたです。

毎日一緒に遊んでいるうちに「し』は何だったっけ?」と尋ねると「知らぬが仏」「け』は?」「けんか両成敗」と、孫2人が答え合うように。さらに、ポスターや広告でひらがなを見つけては「かわいいう子には旅をさせるの『か』だね」などと嬉しそうに言い当てます。

かなを覚える手助けにもなるし、何と言っても誇らし気に答える子ども達の笑顔と成長が楽しみで、毎日笑いが絶えません。

＊ 楽しみながら学べるなんて、まさに「石二鳥」ですね。



みんな集まれ

兵庫県姫路市 坪田 保さん

私は、95歳の母が病院へ行く時に兄弟姉妹が集まるのが好きです。話が盛り上がって楽しいし、色々な行事も片付きます。

また、それぞれが持ち寄る美味しいものをいただきながらお茶もできるし、何と言っても、そんな私達を見る母の嬉しそうな笑顔がみんなの元気の源になります。

みんなで助け合えばそれぞれの負担も少なくなり、時間を上手く調整するだけで最高の親孝行にもなります。

母の人徳に感謝し、親孝行を続けたいと思っています。

＊ お母さまの嬉しそうな笑顔が、親孝行の証ですね。



手

埼玉県川口市 加藤 恵美子さん

初孫は、まだ言葉は出ませんが、早くコミュニケーションがとれば良いなと思っていました。

そんなある日、みかんを机に並べ、だっこした孫に「ばーばにーん」と言って口を開けてみせると、小さな手でみかんをつかんで私の口の中へ入れてくれました。今度は「おいしいね」と笑顔で声をかけると、嬉しそうに笑い返してくれるではありませんか。

そう言えば、まだこの孫が娘のお腹にいた頃、逆子だったのでお腹をさすりながら「いい子にしてね」と声をかけたら、翌日、正常な位置に戻ってくれたことを思い出しました。「手当て」という言葉があるように、手には素敵な働きがあるのですね。

その小さな手を、喜びや幸福になるために使ってほしいと願うばかりです。

＊ 赤ちゃんの身ぶり手ぶりには、本当に癒されますね。

燈々無尽

人を責めるのではなく

自分勝手、エゴイズムではなへ、
ひとつになることです。

誰が悪い、彼が悪い、
と言ってみたくらいで、

ご本人にしてみれば、自分が一番正しいと
思っておられることでしょう。

他をせめたり、叱ったりするのではなく、
許して下さい、とお願いをし、

弱い人間同士、出来る限り、助けあい、
いたわり合ってゆきたいと思うだけです。

鈴木清一



凧つくり

長野県諏訪市 伊藤 祐三さん

先日、3日間かけて地元の小学生4人と一緒に凧を作りました。途中、3年生の女生徒が突然泣き出したのです。どうやら、他の仲間より進み具合が遅いと思い込んで、切なくなったようです。

私が励ましていると、他の生徒達が横に並んで一緒に作り始め、次第に彼女も落ち着いた様子で笑顔がこぼれるまでに。子ども達には仲間意識が芽生え、お互いに支え合う気持ちが育まれているようでした。

凧の完成後に全員で凧あげをしました。手作りの凧なので途中で墜落することもありましたが、彼らにとっては完成の歓びと、友達との絆を実感できた良い体験になったと思います。

＊ 子ども達の成長を肌で感じる、ステキな行事ですね。



新春マラソン大会

静岡県清水区 鈴木 直子さん

新春2日の朝、当日そこへ行けば誰でも参加できるというマラソン大会があり、そのおおらかさが気に入ってここ数年よく参加しています。

私(65歳)と息子達(43歳と39歳の親子3人で富士山と太平洋をバックに、海岸線を走るのです。フルマラソンにも出場する息子達は6km、私は3km。63歳から始めたジョギングのおかげで親子揃って出場できるなんて、私にとっては「幸せの時間」に他なりません。

この「幸せの時間」は、我が家の正月の風物詩になりつつあります。

＊ 家族揃って新春マラソンだなんて、健康な一年になりそう。



息子の小さな偉業

新潟県長岡市 樺沢 奈菜子さん

一晩で腰の高さまで雪が積もり、電車もバスも高速度路も止まった朝のことでした。30分以上前に家を出た息子から「バスが来ないから駅まで車で送ってほしい」との電話がありました。それに対し「待っていればいずれ来るよ」と返すと、息子は「とりあえず帰る」と言って電話を切りました。

私も仕事に行かなければならないし、学生の遅刻は自己責任で...と思っていたら、帰宅した息子が同じバス停に居合わせた女性を連れて帰ってきたのです。話を聞くと、透析治療を受けに行くところだったそうで、大慌てで彼女を乗せて出発しました。

さすがに交通渋滞はひどく、普段なら15分で着くところが2時間もかかってしまいましたが、それでも自分の遅刻を省みず彼女を助けようと考えた息子を見直した母でした。

＊ 彼女にとって息子さんは、まさに頼もしいヒーロー。

愛の輪からの「アム
みんなと一緒に、
私たちができること。」

13



愛の輪は日本とアジアの地域社会の
リーダーを目指す障がいのある若者に、
海外での研修活動を行っています。

ドーナツを食べて 障がい者支援を。

1月27日はミスタードーナツ創業の日。ミスタードーナツではこの日を「反省と感謝の日」として、当日の売上の10%を愛の輪基金に寄付するとともに、全国のショップ周辺の清掃活動を毎年実施しています。昨年は日本で研修中のアジア研修生も参加。清掃後はショップスタッフと交流を図り、改めて感謝の気持ちを実感する機会になりました。1月27日はドーナツを食べて、障がい者リーダー育成事業をご支援ください。



このコーナーについてはダスキン愛の輪基金まで。

☎ 06-6821-5270 🌐 <http://www.ainowa.jp/>

あなたのお便りや写真を
お寄せください。

みなさまからお寄せいただいた
お話をもとに新聞をつくってまいります。
どうぞ、あなたが体験したうれしかったこと、誰かに聞いて
もらいたいことなど、身近な話題をお寄せください。

送り先

〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33
株式会社ダスキン広報部
ダスキン「喜びのタネまき新聞」編集室
e-mail: koho4@mail.duskin.co.jp

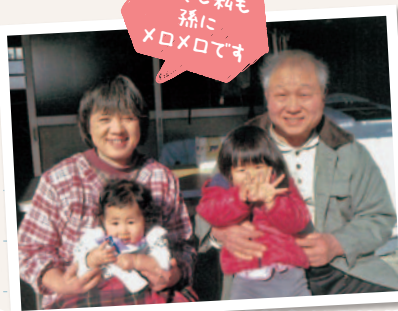
投稿には、名前、年齢、職業、住所、電話番号、
現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。
紙面やホームページでご紹介させていただいた
原稿や写真にはお礼をさせていただきます。



京都府木津川市 遠藤正子さん



鹿児島市
中村麻衣子さん



神奈川県横浜市
石井福江さん



福井県あわら市
宗石孝子さん



北海道札幌市
高田十志男さん

みてもらおう!

見てうれし、見せてうれし。
あなたのお気に入りの1枚を送ってください。

No.419からのバックナンバーが
下記のアドレスからご覧になれます。

▼
<http://www.duskin.co.jp/tanemaki/>



お得な情報満載!
LINE@は
もう登録しましたか!?

毎日をちょっと楽しくする
情報をお届けします!
ぜひ友だち追加
してみてください!

LINE紹介
ページへ
アクセス!!



この新聞をお届けしているのは

株式会社 **ダスキン**

発行・編集：広報部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

【お客様の個人情報の取り扱いについて】
お客様の個人情報は商品のお届けや回収、サービスの提供に利用させていただきます。また、後日商品やサービスのご案内をさせていただく場合があります。なお、お預かりした個人情報はダスキングループと加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記ダスキンコールセンターまでご連絡ください。

■ダスキンコールセンター

0120-100100 www.duskin.co.jp